

「夢を追う」学生をサポートする 通信制高校・第一学院

スポーツの有望選手も在籍！

第一学院は全国52カ所にキャンパスを持つ広域通信制・単位制高校、教育スタイルが多彩で、個人の能力を尊重、夢を追う学生を手厚くサポートしている。今回のリオ五輪男子サッカー日本代表に卒業生2人が選ばれ、話題を呼んだ。そんな第一学院とはどんな学校なのか？ 8月5日に東京・四ツ谷キャンパスで行われたサッカー1次リーグ初戦の生中継「第一学院キャンパス全国横断パブリックビューイング」取材した。

生徒約4200人

第一学院の教育理念は「生徒第一」「1/1の教育」。

「生徒第一」「1/1の教育」。そして自分の学力や希望進路に合った学び方ができる。例えば目的別に選べる選択。高校卒業を目指すのか、高卒資格を取得してさらに上を目指すのかで、学び方も変わってくる。また通学型か通信型かというチョイスも可能。生徒は全国に約4200人いる。

指導法は最新の脳科学の研究を生かした「生徒のやる気を引き出す独自のEM Sメソッド」を導入。もともと自分自身を好きになる学び方や希望進路に合った学び方ができるのが特長。



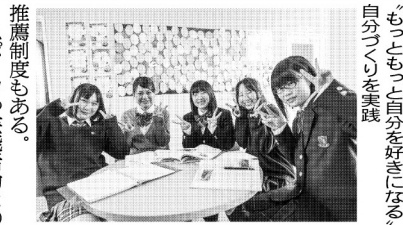
自分の学力や希望進路に合った学び方ができるのが特長

「自分づくりを実践し、社会で活躍できる人づくりに取り組む」。

生徒に対するサポートにも定評がある。在学中はもちろん、卒業後もこれが続くん、専門学校等665人、就職等258人、指定校



第一学院の教育理念は「生徒第一」「1/1の教育」



もともと自分を好きになる自分づくりを実践

推薦制度もある。スポーツや芸術活動との両立をめざす生徒も多い。標準コースの学習のほか、大手芸能プロダクションのワタナベエンターテインメントが運営する渡辺高等学院と連携した芸能コース（東京・中目黒、名古屋）や、高専本校にはスポーツコースもあり、サッカー部は全国大会出場の実績を持つ。

サッカーで活躍する卒業生が多いが、今年はテコンドー・東京五輪千葉県強化指定選手・東島星夜君、スケートボードの有力選手・池田大亮君が入学した。スケートボードは東京五輪の正式種目に決まったばかりの新たなジャンル。本人は「東京五輪に出場できるような学生生活も充実させたい」と話す。学校側も「楽しみながら存在」（横尾優介キャンパス長）と期待を寄せている。

◆沿革 05年4月、茨城県高萩市に広域通信・単位制の「ウイザス高等学校」を開校。08年に姉妹校の「ウイザス ナビ高等学校」（兵庫県養父市）を開校。12年に「第一学院高等学校」に校名変更、現在に至る。問い合わせは0120・761・0880。

リオ五輪男子サッカー代表に卒業生中島、岩波 東京・四ツ谷キャンパスでパブリックビューイング

パブリックビューイングは全国約35キャンパスを結んで行われた。これは2年前のW杯代表に卒業生の香川真司、柿谷曜一朗、酒井宏樹の3人が選ばれたことに続き2度目。今回の五輪



先輩に声援を送る第一学院高の学生

は卒業生の中島翔哉（東京・岩波拓也（神戸）が代表となり、バックアップメンバーとして杉本大地（徳島）が選ばれた。四ツ谷キャンパスでは午前10時の試合開始時点には生徒、教職員、スタッフ合わせて約50人が教室がいっぱいになった。

最前列で応援していた高



中島翔哉選手（右から2人目）にフォトモザイクを渡す渡辺真帆さん（同3人目）ら学生たち

2の渡辺真帆さんは7月、全国のキャンパスから集めた在校生の写真約800枚を組み合わせて、フォトモザイクアートを作成。直接中島に手渡し激励していた。試合は4-5でナイジェリアに敗れたが、渡辺さんは「中島選手は次の試合で点を取ってほしい」と先輩にエール。その声が届いたのか、次のコロンビア戦では日本の予選敗退を救う起死回生の同点ゴール。見事に



岩波拓也選手（中央）にフォトモザイクを渡す学生たち

Try Your Best! リオ五輪男子サッカー代表
祝 リオデジャネイロオリンピックサッカー日本代表
中島翔哉選手・岩波拓也選手

パブリックビューイングで掲げられた横断幕。下には中島、岩波両選手のサインも